

埼玉。宮城真人会が寄付

福祉団体にマスク1500枚等

「今こそ団結する時！」

「このコロナ禍で、各所大変な中、皆何ができるか考え、福祉団体の支援に決まりました。わずかですが、この寄付で少しでも助けになれば嬉しいです。」と今回の高齢者福祉施設への寄付を立案したブラジル埼玉県人会の吉田章則会長（47歳、埼玉県）はそう語った。新型コロナウイルスにより各所に影響が起きている昨今、埼玉県人会と宮城県人会（アガリ・エドガリ会長）が中心となって他県人会の協力も得て、6月27日に物資の寄付を行った。



埼玉県人会と寄付を受けた福祉施設の方々

県人会メンバーは各所にお金や物資の寄付を募り、懇の園・希望の家・こどもの園へマスク約1500枚やウールキヤップ、米や塩等の食料品、中古の洋服、本、テレビ、靴等を寄付した。このチャリティー企画は、埼玉県人会理事会のニシムラ・アドリアーナさん（49歳・二世）と松木・ヤスミン・ありさん（20歳・三世）と宮城県人会が中心となって実現した。アドリアーナさんは寄



右から埼玉県人会の吉田会長、松木さん、アドリアーナさん

付活動のきっかけを、「コロナ禍で日本祭りや各イベントができず大変だ」という声をよく聞きます。特に福祉団体は高齢者が多いに聞かれます。マスクの数が残り少ないという話を聞き、こういう時こそ日系社会で団結すべく、埼玉と宮城のメンバーで寄付を募りました」と説明した。

「寄付を受けた懇の園の吉岡黎明会長は、感謝の思いを、「このコロナ禍で経営はギリギリで、こういう寄付をいただけて、こころから感謝している」と述べ、「現在、懇の園は家族の面会を禁止し、マスクやアルコールスプレーで施設内を消毒し、コロナ対策を徹底しています。運営面もまだ危険な状況は続いているので、コロナ禍でも可能なデリバリーのイベントや寄付を募ることも考えています」と厳しい現状を語った。

希望の家の下木・明美・シルセ理事長も、「希望の家は、このコロナ禍で従業員を1人解雇しました。110人いた職員は今99人、本当に苦渋の決断です。他の高齢者施設同様、運営は厳しくなっています。そんな中でも今回のような寄付をしていただけて本当に助かります」と感謝した。

同団体はチャリティーイベントを企画中で、「大変な時期ですが、少しでも運営の立て直しを思い、当施設主催のエイジヨアータ宅配イベントを行います。もうすぐになりの注文が入っており、感謝してもきれません。このコロナ禍で、皆の団結力がどんどん増しているような気がします」と語った。

キ・トシオ・エジソンさんによれば、入居者2人がコロナに罹り、現在病院で隔離中とのこと。「当施設は入居者が70人いますが、半分の35人がいま時的に各自宅に戻っています。また、入居者の中でコロナ陽性が2人発生し、現在病院にて隔離治療中です。幸いにも重症ではなりましたが、そのことも踏まえて、引き続き施設内のコロナ対策を徹底しています。この渦中に今回の寄付は本当に助かります」と現在の気持ち

◎小学生部門 中学575・2949、FA X 0922575・2480
伯国内在住者は高橋暎子さんが窓口となっており、送付先は Eiko Takahashi Caixa Postal. 465, Sao Roque - SP CEP 18130-970

文協の図書再開、事務局と関連施設は休館延長
ブラジル日本文化福祉協会（文協）市川リナト会長は聖州・市当局によるクアレンティナ（検疫）延長の指示に従い、文協事務局、日本館、日本移民史料館、国土館スポーツセンターの施設休館を、7月14日まで延長することを発表した。

あるいはこれは、ブラジルに移住したことによって、人々は宗教までも変えて改宗したということなのだろうか。が、しかし、そのようなことは常識からいっても考えにくい。確かに、自分たちの人生を大きく変えてしまふほどのインパクトを、移民というものは持っている。が、それだからといって、それまで心の拠り所としてきた宗教まで、それによって変えてしまふというような発想は生まれ来ないだろう。

だとして、ここにいる日本人グループが持っているキリスト教の教会は、いったい、どういう意味を持つものなのか。それを知るには、日本語を通じて日本人の持つ精神的な面を理解できれば、その答えが見つかるのではないかと。そんなふうなマルコスも考えてみた。

今までは、ほとんどどの関心も持っていなかった日本人に対して、このように急激な思考の変化が現れるというのは、いささか奇異にも取れるのだが、実際に彼にはそのような、いつてみれば心境の変化がこのとき起きたと思えなかつた。それは彼自身にとっても、誠に不思議な現象であったといえよう。

福岡女学院短歌コンクール

作品募集、「今をうたう」で

学校法人福岡女学院（福岡市所在地）は、学院ホームページで発表「今をうたう」をテーマに「福岡女学院短歌コンクール」を開催し、年齢・性別・居住地・国籍関係なく、海外からも広く応募を募っている。1人2首までで投稿料は無料。授の4人。

発表は10月末日福岡女学院（福岡市所在地）は、学院ホームページで発表する。選者は伊藤一彦（歌人）、依万智（歌人）、松岡健（歌人）、福岡女学院大学准教授、松岡健（福岡女学院大学准教授）の4人。



コンクール募集チラシ

「大耳小耳」
昨年の第6回福岡女学院短歌コンクールには、日本や海外から9537首（6454人）の応募があった。海外特別賞にはドイッ、シンガポール、アメリカからの応募があり、特にドイッ日本人学校の入選者も数多く見られた。「ブラジルからもぜひ応募を」とドイッ在住のピアニストで歌人の西田望東子さんから高橋暎子さんへ呼びかけがあったという。こんな「今」だから、自分の思いと向き合い、短歌作品に昇華してみてはどうだろうか。

休館延長に関して文協広報は「大変ご迷惑をおかけいたしますが、市民の皆様および従業員の健康を何より優先した処置であることをご理解いただき、ご理解を求めさせていただきます」と理解を求め、問い合わせ先は（電子メール）contato@bunkyo.org.br、電話1132081755

マルコスの日本語塾を担当している、アヤ・ヒラタ先生は、日系人ではなく日本からの移民であった。つまり、日本人である。一年ほど前に、永住を目的として日本からブラジルにやってきました。普通の農業移民ではなく、どうも、この教会の関係者としてこちらの教会から呼び寄せられたようであった。

彼女自身の家族は日本に残り、彼女の叔父の家族と一緒に移民してきたというのである。彼女だけが、教会の仕事に携わっているようで、叔父とその家族は、この近くにある植民地に入植し、どうもこのころや落花生、それにコーヒの栽培を手がけているようであった。

もともと、そのような事情が分かったのは、もつと後になってからのことであり、最初はただ、この若い先生の話す日本語を一生懸命聞き取るだけに集中していた。最初の日に、自己紹介とともに、私があなたたちの日本語の学習を担当する、アヤ・ヒラタ先生ですという説明があった。が、正直なところマルコスには、彼女がひどく若く見えたから、何だか先生と呼ぶにはふさわしくないような気持ちを持った。ブラジルに来て一年目が過ぎたというが、その割にはポルトガル語がうまく、結構、難しい言葉も知っており、それなりに勉強をしていることを思わせた。

日本移民と感染症との戦い

世界最大の日本人無医村で

1918年にブラジルのド・プリンセスが横浜にスペイン風邪を持ち込んだのは、英国を出航した客船デメララ（D. Meara）の乗客だった。現在ではウイルス患者の主要な移動手段は飛行機になっているが、今も客船による感染は健在だ。新型コロナウイルスで死亡したのは一人。乗船者中の致死率はわずか0.02%だ。

移民史を振り返ると、同じ事は当然、移民船にも起きていた。たとえば、1918年（大正7年）年4月25日、1800余人の移民を乗せて神戸港を出航した若狭丸は、ブラジルへの渡航途中、脊髄膜炎患者が連続して「門司とシンガポールで消毒予防に尽くしたが、六十人の死亡者を出した」『移民四十年史』（香山六郎編著、1949年、385ページ）とある。

脊髄膜炎は通常、微生物感染によって引き起こされるもの。移民が押し込まれる「こ部屋」は二段ベッドの密集所帯であり、感染を避けるのは難しかったらう。

シンガポールまでに2、3週間と思われるが、その間に60人が死亡するというのは、艦内で相当大流行したに違いない。若狭丸の場合、感染者数は分からないが短期間に「乗船者の3%が死亡」というのはあまりに多すぎる数字だ。

翌1919年1月21日に神戸港を出航した博多丸でも航海中に脳脊髄膜炎患者が4人。さらに3月17日にサンクトス到着時には、小児麻疹患者が多かったのだ。

ブラジル海検査官は厳密な検査を実施した。その結果、船丸ごとリリヤ・グランデ検査所に隔離させ、患者とその家族100人余りを検査所で8日間留置した。それ以外は無事に上陸した。

「モタンメディア」56巻2号2010「人類と感染症との闘い」（加藤茂孝著 https://www.eiken.co.jp/uploads/modern-media/literature/MM1002_03.pdf）

「大耳小耳」
あるいはこれは、ブラジルに移住したことによって、人々は宗教までも変えて改宗したということなのだろうか。が、しかし、そのようなことは常識からいっても考えにくい。確かに、自分たちの人生を大きく変えてしまふほどのインパクトを、移民というものは持っている。が、それだからといって、それまで心の拠り所としてきた宗教まで、それによって変えてしまふというような発想は生まれ来ないだろう。

「今こそ団結する時！」
「このコロナ禍で、各所大変な中、皆何ができるか考え、福祉団体の支援に決まりました。わずかですが、この寄付で少しでも助けになれば嬉しいです。」と今回の高齢者福祉施設への寄付を立案したブラジル埼玉県人会の吉田章則会長（47歳、埼玉県）はそう語った。新型コロナウイルスにより各所に影響が起きている昨今、埼玉県人会と宮城県人会（アガリ・エドガリ会長）が中心となって他県人会の協力も得て、6月27日に物資の寄付を行った。

「寄付を受けた懇の園の吉岡黎明会長は、感謝の思いを、「このコロナ禍で経営はギリギリで、こういう寄付をいただけて、こころから感謝している」と述べ、「現在、懇の園は家族の面会を禁止し、マスクやアルコールスプレーで施設内を消毒し、コロナ対策を徹底しています。運営面もまだ危険な状況は続いているので、コロナ禍でも可能なデリバリーのイベントや寄付を募ることも考えています」と厳しい現状を語った。

希望の家の下木・明美・シルセ理事長も、「希望の家は、このコロナ禍で従業員を1人解雇しました。110人いた職員は今99人、本当に苦渋の決断です。他の高齢者施設同様、運営は厳しくなっています。そんな中でも今回のような寄付をしていただけて本当に助かります」と感謝した。

同団体はチャリティーイベントを企画中で、「大変な時期ですが、少しでも運営の立て直しを思い、当施設主催のエイジヨアータ宅配イベントを行います。もうすぐになりの注文が入っており、感謝してもきれません。このコロナ禍で、皆の団結力がどんどん増しているような気がします」と語った。

キ・トシオ・エジソンさんによれば、入居者2人がコロナに罹り、現在病院で隔離中とのこと。「当施設は入居者が70人いますが、半分の35人がいま時的に各自宅に戻っています。また、入居者の中でコロナ陽性が2人発生し、現在病院にて隔離治療中です。幸いにも重症ではなりましたが、そのことも踏まえて、引き続き施設内のコロナ対策を徹底しています。この渦中に今回の寄付は本当に助かります」と現在の気持ち

◎小学生部門 中学575・2949、FA X 0922575・2480
伯国内在住者は高橋暎子さんが窓口となっており、送付先は Eiko Takahashi Caixa Postal. 465, Sao Roque - SP CEP 18130-970

文協の図書再開、事務局と関連施設は休館延長
ブラジル日本文化福祉協会（文協）市川リナト会長は聖州・市当局によるクアレンティナ（検疫）延長の指示に従い、文協事務局、日本館、日本移民史料館、国土館スポーツセンターの施設休館を、7月14日まで延長することを発表した。

あるいはこれは、ブラジルに移住したことによって、人々は宗教までも変えて改宗したということなのだろうか。が、しかし、そのようなことは常識からいっても考えにくい。確かに、自分たちの人生を大きく変えてしまふほどのインパクトを、移民というものは持っている。が、それだからといって、それまで心の拠り所としてきた宗教まで、それによって変えてしまふというような発想は生まれ来ないだろう。

だとして、ここにいる日本人グループが持っているキリスト教の教会は、いったい、どういう意味を持つものなのか。それを知るには、日本語を通じて日本人の持つ精神的な面を理解できれば、その答えが見つかるのではないかと。そんなふうなマルコスも考えてみた。

今までは、ほとんどどの関心も持っていなかった日本人に対して、このように急激な思考の変化が現れるというのは、いささか奇異にも取れるのだが、実際に彼にはそのような、いつてみれば心境の変化がこのとき起きたと思えなかつた。それは彼自身にとっても、誠に不思議な現象であったといえよう。

マルコスの日本語塾を担当している、アヤ・ヒラタ先生は、日系人ではなく日本からの移民であった。つまり、日本人である。一年ほど前に、永住を目的として日本からブラジルにやってきました。普通の農業移民ではなく、どうも、この教会の関係者としてこちらの教会から呼び寄せられたようであった。

彼女自身の家族は日本に残り、彼女の叔父の家族と一緒に移民してきたというのである。彼女だけが、教会の仕事に携わっているようで、叔父とその家族は、この近くにある植民地に入植し、どうもこのころや落花生、それにコーヒの栽培を手がけているようであった。

Hatiro Shimomoto Advocacia

下本八郎法律事務所

- Trabalhista - Cível e Família
労働法 - 民事法 - 家庭裁判
- Comercial - Tributária - Fiscal
企業法務 - 租税法 - 税務法
- Assessoria e Consultoria Empresarial
企業相談 コンサルティング

Hatiro Shimomoto - OAB 25412 下本 八郎
Márcio M. Shimomoto - OAB 192156 下本 マルシオ 雅生

Rua Coronel Meireles, 170 - Penha - SP
advocacia@hshimomoto.adv.br - www.hshimomoto.adv.br
Fone: (11) 2856-7219

「大耳小耳」
あるいはこれは、ブラジルに移住したことによって、人々は宗教までも変えて改宗したということなのだろうか。が、しかし、そのようなことは常識からいっても考えにくい。確かに、自分たちの人生を大きく変えてしまふほどのインパクトを、移民というものは持っている。が、それだからといって、それまで心の拠り所としてきた宗教まで、それによって変えてしまふというような発想は生まれ来ないだろう。

マルコスの日本語塾を担当している、アヤ・ヒラタ先生は、日系人ではなく日本からの移民であった。つまり、日本人である。一年ほど前に、永住を目的として日本からブラジルにやってきました。普通の農業移民ではなく、どうも、この教会の関係者としてこちらの教会から呼び寄せられたようであった。

小説 クリスト・レイ

中島宏

国際派日本人養成講座

伊勢雅臣

日本を作った人口の波

2011年8月7日版

1. 江戸時代は人口停滞の暗黒期?

江戸時代後半の農民は重い貢租を課せられて、食う食わずの生活を送っており、墮胎や間引き(生まれた子どもを殺すこと)が広く行われていた。度重なる飢饉と流行病に襲われて、人口は停滞した」と高校の日本史で教えられた人は多いであろう。

最近、歴史人口学という学問が発展し、史実に基づいた研究により、こうした見方に異議が唱えられている。

確かに、江戸時代後半は人口停滞の時代だった。徳川幕府の全国人口調査をベースとした推計によると、享保6(1721)年の3千万人が、弘化3(1846)年で3千2百万人と、125年間で3.2%、年平均0.03%の増加に留まっている。

しかし、この数値だけつまみ食いしては、歴史の全体像を見誤る恐れがある。1600年頃、江戸幕府が樹立された当時の人口は、諸説あるが、中間的な説によると1千2百万人とすると、1721年までの120余年間に1千9百万人も増加し、2.5倍になったという事になる。まさに江戸時代前期は人口爆発の時代だった。「1, P16」

また人口停滞と言われる期間を、人口が最も落ち込んだ1792年を境として分けてみると、1721~1792年は4.5%の減少、1792~1846年は8.5%の増加と、くっきりと二分される。19世紀の増加は、そのまま明治以降の急速な人口増加の先駆けとなっている。

したがって江戸時代後半の人口停滞期、それも70年ほどの限られた期間だけをとりあげて、「重い貢租、墮胎や間引き、飢饉、流行病」などと、江戸時代全体を暗黒時代であったように描くのは、学問的バランスを欠いており、ことさら過去の歴史を悪く描こうとする政治宣伝と批判されても仕方がないであろう。

2. 第1の波 縄文時代の人口増加

この700年ほどの人口停滞期がどうして起こったのか、その謎解きの前に、過去1万年ほどの日本列島の人口の変動を見てみよう。

日本の人口の変動を見てみよう。

日本列島に住む我々の祖先の生活を、さまざまな遺物からはつきりと再現できるようにするのは、およそ1万年前の頃からのことである。約1万年前から6千年前の縄文早期の人口は2万人程度とみられている。

その後、約5~4千年前の縄文中期には、26万人程度まで順調に増加した。これが日本列島における第1の波と言われている。

青森県で発見された三内丸山遺跡は、約5千5百年前から1千5百年間栄えた集落で、ちょうどこの最盛期に当たる。約100棟の掘立柱建物、約580棟の竪穴住居が整然と配置されており、なかには高さ10m以上、長さ最大32mもの巨大木造建築もあった。

近くには人工的に栽培されたクリ林が生い茂っており、そこから食糧を採取していた。「A」

縄文中期を通じて、人口は東日本に偏っており、縄文中期の26万人のうち96%が関東、東北、北陸の東日本に集中していた。

これは西日本では木の葉を主食としていたが、東日本ではさらに遡上するサケ、マス類を食べることができたからである。しかし、その後、4千5百年前を境に、寒冷化が進み、2千5百年前の晩期までに平均気温が3度も低下した。

これによって人口は縄文晩期、約4~3千年前には16万人、晩期約3千~2千3百年前には7万6千人と減少していった。寒冷化による植生の変化で、人口を支えるだけの木の実類がとれなくなり、特に東日本では人口が80~90%も減少していった。

逆に、西日本では気温低下の影響はさほどではなく、また縄文晩期・晩期には、イモ、豆、雑穀などを栽培する焼き畑農業が広がって人口は増大した。

※これを読めば自然に、日本の文化や歴史に関心がもてるような話を毎週掲載しています。より多くの二世の方や日本語学習者に読んでもらい、少しでも日本に興味を持ってもらえるよう、最寄りの日本語学校や日系団体の掲示板に張ったり、普段は邦字紙を読んでいない兄弟や子や孫などに記事を紹介してください。(ニッケイ新聞編集部)

3. 第2の波 稲作による人口増加

紀元前3世紀頃、西日本から稲作農耕が広がり、国家形成と相まって、人口増加の第2の波が始まった。3世紀のヤマト国時代には、「魏志倭人伝」に記されている29万の戸数などから、220万人内外であったと推定されている。

外であったと推定されている。大化の改新後、天智天皇9(670)年に初めて

の全国的戸籍の作成が行われ、その後、6年ごとに戸籍調査が行われた。これらの調査結果をもとに、奈良時代末期、平安初期に該当する西暦800年頃の人口は600万人から650万人と推定されている。

戸籍調査には、高度な読み書き能力を備えた多数の役人と、彼らを動員する強い行政力、膨大な負担に耐える国家財政が必要となるので、現在も多くの発展途上国で未実施であることを考えれば、7世紀に戸籍調査を行っていたことは、当時の国家の充実に現す事実である。

稲作文化は、次の二つの面で人口増加を支えたと考えられている。第1は、稲作によって単位面積当たりに養える人口が大幅に増えたこと。第2に、水田耕作が田植えや稲刈り、さらには灌漑施設の構築も含め、多くの労働力を必要としたことである。

初代・神武天皇は九州から東征して、大和の地で即位したが、その過程で瀬戸内海の各地に長期間留まり、農業や漁業などを教えるながら、移動したと言いつた「A」。我が国は、この第2の波の中で建国されたのである。

気候の変化も、稲作の普及を後押しした。縄文晩期から弥生時代にかけて温暖化が進み、気温は上昇した。4世紀から7世紀にかけて一時的な寒冷期が訪れたが、奈良時代に入ると、転じて気温上昇が始まり、12世紀頃まで続く、夏期の高温と日照を必要とする稲作には、適した季節だった。

飛鳥・奈良・平安時代と続く古代国家の確立、隆盛は、この人口増を背景とする経済的発展を基盤としていたのだらう。

4. 第2の波の終わり

西日本は高温と日照などの気候面、および緩やかな平野部が多い地形面から稲作に適しており、人口増の中心となった。しかし気候温暖化によって、稲作が東日本にも普及し、12世紀には再び関東地方が人口分布の首位となった。

10世紀から12世紀にかけては、当時の技術で稲作可能な土地はほぼ開拓が終わり、また古代国家

の公地・公民制から荘園・公領制へと土地の私有化が進み、大規模な農地開拓ができなくなった。こうして稲作を原動力とする第2の人口増の波は終息した。

12世紀は高温化と同時に乾燥化が進んだ。西日本を中心に日照による大飢饉に襲われた。鴨長明の「方丈記」には、養和元(1181)年、飢饉と疫病に襲われた京の町中で、乞食があふれ、打ち捨てられた屍が累々と道に横たわる悲惨な状況が描かれている。

西日本を基盤とする平氏が倒れ、東国武士団が成長して源氏の鎌倉幕府が開かれた背景には、この人口変動があった。また飢饉の中で未法思想が現れ、大衆の救済をめざす鎌倉新仏教が現れた。

人口成長の第3の波は14~15世紀の室町時代から始まり、18世紀の江戸時代中期まで、450年続いたと推測されている。人口は平安末期の680万人台から、江戸時代中期の3千万人台へと飛躍した。

第3の波は、市場経済化と生活革命という二つのキーワードでとらえる事ができそう。

市場経済化とは、荘園内の自給経済から、農民の独立と貨幣による市場取引の進化である。農民が自分の田畑を持ち、自ら工夫を進めることで、収穫を増やすことができるようになった。そしてそれを市場で売り、様々な物品を手に入れることで生活を改善できた。これは農民の生産意欲を刺激し、技術の向上を通じて、農業生産性を人に高めたのであろう。

5. 市場経済化と生活革命による第3の波

高校の日本史では、織田信長の楽市楽座、太閤秀吉の刀狩と検地などを学ぶが、楽市楽座は自由市場取引を推進し、刀狩と検地は独立した農民たちを農業に専念させ、年貢を徴収するための戸籍調査だったと解釈すれば、その意味がよく分かるだろう。

生活革命の面では、従来の荘園に属していた農民は生涯独身のままというケースも多かったが、独立することによって、誰でも結婚するのが当然という「皆婚社会」が実現し、婚姻率の増加が出生率の上昇をもたらし、さらに食料供給の増加に伴う食生活の量的・質的充実、木綿栽培の普及による衣類・寝具の改善、畳敷きの普及による住生活の向上など、今日、日本的とされる生活様式がこの頃に作られ、それによって死亡率の低下も進んだ。

この第3の波が終わるのが、1800年を中心とする100年間の小氷河期であった。1789年に勃

発したフランス革命も寒冷化による飢饉が原因の一つであったと言われている。我が国においても、宝暦(1753~63年)、天明(1782~87年)、天保(1833~36年)と凶作が続いた。1721~1846年の125年間で地域別の人口変動を見ると、東奥羽18.1%減、北関東27.9%減と大きな減少を見せており、凶作の影響が顕著に見られる。

しかし、北陸、山陰、山陽、四国、南九州など他地区では、20%前後の増加を示しており、日本全体では3%の増加となっている。特定地域の飢饉と天災さえなければ、十分に人口増加が可能であったことが分かる。

したがって、農民は重い貢租を課せられて、食う食わずの生活を送っており、ときも江戸時代の日本全体が暗黒時代であったかのように言うのは、事実上反する。

確かに18世紀に人口成長がスローダウンしたのは、事実である。それは全国が諸藩に分割統治されていた経済体制の中で、従来の市場経済化、生活革命が、段階し、それまでの人口爆発を続けることが不可能となった事を意味している。

その中で人々は、墮胎や間引きという種の産別制限により、人口増加のペースを落とし、一人当たりの所得水準を逆に高めたようだ。そして、ここで作り出された余裕が次の第4の波を生み出す原動力となる。

6. 寒冷化による人口停滞

第4の波産業革命による工業社会。一つの波が終わる頃に気候変動による混乱期はあったが、我々の祖先は技術革新や制度改革、生活革命などにより、その都度、新しい波を創り出して、質的・量的に豊かな社会を実現してきた。その向きのダイナミズムが見てとれよう。

もう一つ留意すべきは、大規模の内乱などによる人口の大きな落ち込みがなかった事である。中国では1851年から14年間続いた太平天国の乱で5千万人も死者を出したと言われている。「B」。また毛沢東の「大躍進」政策では、餓死者2~3千万人が出たと推定されている。「C」

これらに比べれば、我が国の人口は特定の時期の飢饉を除けば、なだらかな増加を示しており、それだけ国内では平和と安定が続いた事を示している。この平和と安定の中で、我々の祖先は次々と技術、制度、生活の革新を果たしてきたのである。

現在第4の波が終わり、今後、我が国の人口は減少していく事が予測されている。人類の大量生産・大量消費が地球環境を脅かすまでに増大したことを考えれば、人口減は当然の現象であろう。社会的・国家的衰退などといった悲観視するよりも、新しい環境への適応であると考えた方がよい。

少子高齢化への対応として外国人労働力の導入を主張する向きがあるが、これはすでに終わろうとしている第4の波を不自然な形で続けようという、はかない試みでしかない。問題は、少子高齢化に適合した新しい文明をどう創り出すかという事である。

過去、次々と新しい技術、制度、生活を生みだして革新を続けてきた日本人のダイナミズムを、今回も発揮しなければならぬ。たとえば、定年後の20年、30年という長い第二の人生をどう有意義に過ごすか、またこれらの人々の持つ技術、経験をどう社会に活かすか。少子社会における教育はどうあるべきか。年金制度をどう改革したら良いのか等々。

このように人口の面から我が国の歴史を見渡してみると、第1の波 縄文時代、豊かな自然の中で安定した社会。第2の波 稲作を原動力とした古代国家の建設と確立。第3の波 農民の自立、市場経済化、生活革命

第4の波 常に出してきたダイナミズムを生み出してきたダイナミズム

7. 常に出してきたダイナミズム

このように人口の面から我が国の歴史を見渡してみると、第1の波 縄文時代、豊かな自然の中で安定した社会。第2の波 稲作を原動力とした古代国家の建設と確立。第3の波 農民の自立、市場経済化、生活革命

第4の波 常に出してきたダイナミズムを生み出してきたダイナミズム

このように人口の面から我が国の歴史を見渡してみると、第1の波 縄文時代、豊かな自然の中で安定した社会。第2の波 稲作を原動力とした古代国家の建設と確立。第3の波 農民の自立、市場経済化、生活革命

第4の波 常に出してきたダイナミズムを生み出してきたダイナミズム

このように人口の面から我が国の歴史を見渡してみると、第1の波 縄文時代、豊かな自然の中で安定した社会。第2の波 稲作を原動力とした古代国家の建設と確立。第3の波 農民の自立、市場経済化、生活革命

第4の波 常に出してきたダイナミズムを生み出してきたダイナミズム

このように人口の面から我が国の歴史を見渡してみると、第1の波 縄文時代、豊かな自然の中で安定した社会。第2の波 稲作を原動力とした古代国家の建設と確立。第3の波 農民の自立、市場経済化、生活革命

第4の波 常に出してきたダイナミズムを生み出してきたダイナミズム

第4の波産業革命による工業社会。一つの波が終わる頃に気候変動による混乱期はあったが、我々の祖先は技術革新や制度改革、生活革命などにより、その都度、新しい波を創り出して、質的・量的に豊かな社会を実現してきた。その向きのダイナミズムが見てとれよう。

もう一つ留意すべきは、大規模の内乱などによる人口の大きな落ち込みがなかった事である。中国では1851年から14年間続いた太平天国の乱で5千万人も死者を出したと言われている。「B」。また毛沢東の「大躍進」政策では、餓死者2~3千万人が出たと推定されている。「C」

これらに比べれば、我が国の人口は特定の時期の飢饉を除けば、なだらかな増加を示しており、それだけ国内では平和と安定が続いた事を示している。この平和と安定の中で、我々の祖先は次々と技術、制度、生活の革新を果たしてきたのである。

420年前に南米にきた日本人の歴史 ブラジル移民の歴史から学ぶこと

移民と日本人

本紙記者が20年以上にわたり追いつづけたブラジル日系移民の歴史と今を築いた渾身のルポルターージュ

日本人も移民だった!?

特別価格 **¥150**

ニッケイ新聞社編『移民と日本人—ブラジル移民110年の歴史から—』深沢正雪著、無明舎出版、2019年

ご注文・お問い合わせ 詳しくはニッケイ新聞社編集部まで。郵便でのご注文は太陽堂、フオノマギ、高野書店でどうぞ。

ニッケイ新聞社 ☎11-3340-6060 | 太陽堂 ☎11-3208-6588 | フオノマギ竹内書店 ☎11-3104-3399 | 高野書店 ☎11-3209-3313

国際派日本人養成講座

発行人=伊勢雅臣(文責)

Mail: ise.masaomi@gmail.com

Twitter: https://twitter.com/ise_masaomi

無料購読申込・取消: http://blog.jog-net.jp/

- リンク
- A. JOC (134) 共生と循環の縄文文化
 - 約500年前から1500年間栄えた青森県の巨大集落跡、三内丸山遺跡の発掘は、原日本人のイメージに衝撃を与えた
 - http://www.2s.biglobe.ne.jp/~nippon/jogbd_h12jog134.html
 - B. JOC (403) 戦乱の中国大陸
 - しく合すれば必ず分す
 - 日本が反省すべきは、かくも混沌たる中国大陸の内戦に直接介入した事である。
 - http://www.2s.biglobe.ne.jp/~nippon/jogbd_h17jog403.html
 - C. JOC (109) 中国の失われた20年
 - (上) 2千万人餓死への「大躍進」
 - http://www.2s.biglobe.ne.jp/~nippon/jogbd_h11jog109.html
- 【参考文献】
- 1. 鬼頭宏「人口から読む日本の歴史」★
 - ★ 講談社学術文庫
 - H1 http://www.amazon.co.jp/asin/4061594303/japanese01-22/

MARUITI
TONKATSU YAKISSOBA
www.maruiti.com.br

TEMPLO XINTOISTA DO BRASIL
南米神宮
開運 沼矛八方被
Rua Estado de Israel, 76 - Vila Clementino SP
Tel: (11) 5575-4783 - www.templexintoista.org.br

東京、新規感染124人

連日3桁 悪化傾向続く

再宣言なら休業要請検討

【共同】東京都は3日、都内で新型コロナウイルスの感染者が新たに124人報告されたと発表した。2日の107人に続く3桁で緊急事態宣言解除後の最多を3日連続で更新し、悪化傾向が強まった。3日は国内全体でも計239人の感染が判明し、宣言解除後の最多を2日連続で更新した。

小池氏、地域限定も示唆



記者会見で質問者を指名する東京都知事の小池百合子（共同）

小池百合子知事は定例記者会見で、事業者への休業要請に「国の緊急事態宣言が出た場合は専門家の意見を聴いて判断する必要がある」と述べた。仮に休業要請に踏み切るときは「東京全体なのか、地域や業種を絞るのか検討する」との意向も示した。

一方で感染拡大防止策と経済の両立を進める立場を改めて強調。都民の命を守ることをベースに、

【共同】公的年金の積立金を運用している年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）は3日、2019年度の運用実績が8兆2831億円の赤字だったと発表した。赤字は4年ぶりで損失額はリマン・ショックのあつた08年度に次ぐ規模。同時に発表した今年1～3月期の赤字は1兆7072億円の赤字となり、四半期ベースで過去最悪だった。新型コロナウイルスの感染拡大による世界的株安が響いた。

【共同】マツダの丸本明社長兼最高経営責任者（CEO）は3日、新型コロナウイルスの感染拡大について「リーマン・ショックと比較し、急速で底が深い危機」と述べ、経営への影響を警戒した。広島県府中町の本社で開いた記者懇談会で語った。丸本氏は落ち込んだ販売の回復に注力する考えを示し、「広島経済の一躍を担う企業として地場企業と地域に貢献したい」と意気込んだ。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

【共同】米ビザの制限1400人影響。日系企業、赴任に支障。

習氏国賓来日の中止を

自民 香港で非難決議案

【共同】自民党の外交部会と外交調査会は3日の役員会で、中国による香港国家安全維持法（国安法）制定を受け、習近平国家主席の国賓来日を中止するよう政府に求め、非難決議案をまとめた。来週にも正式決定し、首相官邸に提出する方針だ。安倍晋三首相が実現

【共同】自民党の外交部会と外交調査会は5月29日、再検討を求め、決議案を官邸に提出した。中山泰秀外交部

【共同】自民党の外交部会と外交調査会は5月29日、再検討を求め、決議案を官邸に提出した。中山泰秀外交部

【共同】自民党の外交部会と外交調査会は5月29日、再検討を求め、決議案を官邸に提出した。中山泰秀外交部

【共同】自民党の外交部会と外交調査会は5月29日、再検討を求め、決議案を官邸に提出した。中山泰秀外交部

【共同】自民党の外交部会と外交調査会は5月29日、再検討を求め、決議案を官邸に提出した。中山泰秀外交部

【共同】自民党の外交部会と外交調査会は5月29日、再検討を求め、決議案を官邸に提出した。中山泰秀外交部

【共同】自民党の外交部会と外交調査会は5月29日、再検討を求め、決議案を官邸に提出した。中山泰秀外交部

【共同】自民党の外交部会と外交調査会は5月29日、再検討を求め、決議案を官邸に提出した。中山泰秀外交部

【共同】自民党の外交部会と外交調査会は5月29日、再検討を求め、決議案を官邸に提出した。中山泰秀外交部

JORNAL NIKKEI 新聞
EDITORA JORNALÍSTICA UNIÃO NIKKEI LTDA.
Rua da Glória, 332, Liberdade
Cep 01510-000 - São Paulo - SP - Brasil
TEL: (11) 3340-6060 | FAX: (11) 3341-6476
Site: www.nikkeishimbun.jp
Facebook: www.facebook.com/Nippak.Nikkei
Diretor Presidente: Raul M. Takaki
Jornalista Responsável: Takao Miyagaki - MT 15.167-SP
Redator: Masayuki Fukasawa
記事に関するご意見
Redação: redacao@nikkeishimbun.jp
配達・購読契約に関する連絡
Assinatura: nikkeishimbun@yahoo.com.br
広告に関する連絡、問い合わせ
Publicidade: anuncio@nikkeishimbun.jp
Periodicidade: diária (terça-feira a sábado)
Assinatura Impressa
Anual: R\$ 840,00 | Semestral: R\$ 450,00
Assinatura Digital (PDF)
Anual: R\$ 500,00 | Semestral: R\$ 270,00